

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム けやきの杜
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県長岡市上野町1059番地2
記入者名 (管理者)	佐藤 美晴
記入日	平成 21 年 7 月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	BS法を用いた中でご利用者と職員との間で話し合い、グループホーム独自の理念を作成し、1年に1回見直しの機会を設けている。	○	理念に添った対応関わりが出来ているかどうかの確認、見直しを今後も随時行っていきたいと考えている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	グループホーム内に掲示している。理念をご家族、運営推進委員、職員に配布し常に自覚と共有が実践できるよう取り組んでいる。	○	毎月開催しているグループホーム会議で、理念に添った具体的なケアに対する取り組みを確認しながら、必要に応じて見直しを行っていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	家族、来所者等の目が届く場所に理念を掲示している。運営推進会議や家族の集いを通じ取り組んでいることや様子を伝えている。法人内全体で広報誌を発行。ご家族、ボランティア、学校、行政、町内会へ発送している。更に、施設のパンフレットやグループホーム通信を掲示。運営推進会議においても理念を配布し、説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	同一建物内のケアハウスやデイサービス、デイホームへの行事に参加したり、グループホームにも来ていただいたりと交流の機会を設けている。また、近隣の畑作業のお手伝いやお茶飲み等の交流の場を大切にしている。お花や野菜を届けて下さるご近所の方もおられる。	○	グループホームへ気軽に立ち寄ってくださる方が、まだまだ少ないため、近隣への外出時や施設の行事をきっかけに、気軽に来ていただける雰囲気作りに努めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	ボランティアに来ていただいたり、近隣にある同法人の施設や託児所、グループホームに出かけ、交流の機会をもっている。日常生活の中で、食材の買物をはじめ、郵便局や市役所へも職員と一緒に出かけさせていただくようにしている。受診時に、地域の付き添いボランティアの方よりご協力いただいたり、地域の大正琴教室に参加し、地域の方々との交		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域での花いっぱい活動に参加している。近隣の畑に寄せさせていただいたり、作ったお花の苗を近隣にお届けしたりしている。また、夏まつりにご招待し楽しんでいただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については運営推進委員、ご家族、職員に配布し、改善について運営推進会議で話し合ったり、職員へも個々の振り返りや実施する意義について説明し理解してもらっている。	○	今後も自己評価、外部評価を活かし、評価の意義・目的・具体的内容を確認し合い、改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方、ご家族から出席していただき、グループホームでの様子の報告や話し合いを行っている。そこでの意見を参考にし、サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の訪問相談員の方より二ヶ月に一度訪問していただき、ご利用者の相談にのっていただいている。判らないことがあれば市の担当者に連絡し、相談にのっていただいている。ご利用者と一緒に市役所にも出かけるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とされているご利用者はいらっしやらないが、研修等を通じ学ぶ機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修の年間計画の一つとして実施している。関係資料をグループホーム内に置いて、いつでも職員が読めるようにしている。	○	直接的な虐待はないが、ご利用者自身が不快、苦痛を感じられる対応がないか、カンファレンスやミーティング等を通じ、振り返りや確認する機会をもっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に話し合いの時間をもち説明(ご家族説明会を開催)の上、納得、理解していただいた上で契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問相談員の方より二ヶ月に一回きていただいている。また、運営推進会議や面会等でも話し合い、ご利用者の意見が反映するように努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人施設全体での広報誌や、グループホーム独自の広報誌を定期的に発行し、受診時や面会時等、状態、様子を報告している。個別にも定期的に報告書を郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。面会時にも気兼ねなく職員に何でも言ってもらえるよう雰囲気作りや、会話の機会を大切にしている。ご家族の意見交換の場を設けたり、運営推進会議を行い、いただいた意見を運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回グループホーム会議、経営会議、各種委員会を実施し、職員の提案を聞き取るようにしている。管理者が、日常から職員の意見を改善に結びつくように聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて現場の職員の意見も聞きながら調整し、職員の確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に3ヶ所グループホームが開設するため、6月に4名の職員が異動となった。毎日のミーティングでご利用者の状態を報告しあい、ご利用者へのダメージがないよう対応を話し合っている。また、職員へのダメージも大きかったため、お互いストレスを溜めない人間関係作りにも配慮している。	○	必要に応じ、個別に話し合いを行って行きたい。また、運営推進会議、ご家族にも報告し、支援をお願いした。
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルは整備しており、緊急性のあるものは常に目の届く所に掲示。それ以外のものについてはファイルに綴じ、いつでも目を通せるようにしてある。必要に応じマニュアルの見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修をはじめ、法人内での事例検討、法人外での研修会にも参加している。また、職員の経験年数に応じた研修も実施している。	○	グループホームの職員に応じた、法人内の交換研修も実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内において部会を毎月1回開催し、各グループホームの現状報告や意見交換、勉強会を通じ質の向上へと繋げている。	○	法人内のグループホームで問題点なども共有し解決していきたい。同じサービス、良いサービスを提供していけるよう協働していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見や思い、気持ちをさりげなく言い合える雰囲気作りに努めている。管理者が職員の思いを受け止めながら、必要によりけやきの杜の施設長からも助言をいただいたり、個別に意見を聞いてもらっている。	○	7月に法人内に新しいグループホームが開設となり、4名の職員が異動された。良好な人間関係、チームワーク作りがこれからも必要であり、ストレスを軽減するために円滑なコミュニケーションを図っていけるように学び努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内や外部への研修や事例検討会への参加。月1回のグループホーム会議で現状や取り組みの確認を行っている。個別研修シートを活用し、個々の目標達成に努力するよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで本人にお会いし、本人自身からお話を聴く機会を設けている。十分に説明し、本人が安心できるように努めている。初期には、本人が言いやすいような雰囲気や場面作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みの時点で、困っていることや不安なこと、求めていること等をご家族からお聴きし、相談にのるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援があれば、ケアマネに報告・相談したり、法人内の各種サービスへ繋がられるように他施設と連携を図っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や説明などを行っている。併設のケアハウスやデイサービスから入居される方もおられるため、日頃から交流を図り雰囲気に馴染んでいただいたり、入居後も交流を図っていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者も職員も常に協力し、支え合い、一緒に生活をしているという意識を大切にしている。見守ったり、一緒に考えていたり、教えていただくことを大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設の行事に参加していただき、一緒に楽しんでたり、協力してもらったりしている。受診については、ご家族から付き添っていただくことを基本とし、何かあれば相談させていただいている。	○	今後も、色々なことをご家族と一緒に考え、一緒に行っていけるように努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、日頃の様子をお伝えするようにしている。関係が途切れないように、無理のない中で施設の行事に参加していただいたり、気軽に立ち寄れるような接遇や雰囲気づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族より、自宅への外出・外泊等の協力をいただいている。また、自宅の畑のお手伝いにお連れしたり等、馴染みの場所や人を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が穏やかに気持ちよく生活していけるように、必要な時は職員が間に入り、大きなトラブルにならないように配慮したり、ご利用者同士の関係や背景を把握し、仲良く過ごせる場の設定や雰囲気づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用者が永眠されて契約が終了となったご家族の方からも、運営推進会議や行事に参加していただき、様々なご意見をいただきながら参考とさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりのご利用者の思いや意向を尊重し、日々の言動からも、その方の思いを読み取る努力をしている。ケアプランの見直しの際はご本人の意向を確認している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・ご家族にお聴きしたり、担当ケアマネより情報をいただいたり、センター方式の1部の書式を用い、ご家族より記入していただいている。また、ご本人との日々の会話の中からやご家族・知人の面会時にお話しをお聴きしたりしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録や写真に残し、確認・把握するようにしている。また、日中に行うミーティングの中でご利用者の状態を話し合い、把握し働きかけが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者が、ご本人やご家族の意向をお伺いし、相談してプランの見直しを行い作成している。月に1度行われるグループホーム会議で他職員とプランの内容について検討し見直しを行った上で、ご本人・ご家族に確認していただくようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、6ヶ月ごとにご本人・ご家族と話し合い見直しを行っているが、ご本人の変化に伴い、その時点でも見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、業務日誌に記録し、グループホーム全職員が確認し情報の共有に努めている。グループホーム会議やミーティングの際に意見を聞いて、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の機能を活かし、他事業所の様々なイベントや行事に参加する機会が多く、楽しんでいただいている。法人内のグループホームとも連携をとり、行事に参加させていただいたり、サービスを紹介するなど支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で意見をいただいたり、市から介護相談員の方に来ていただきアドバイスをいただいたり、ボランティアの受け入れも行い協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の身体状態に合わせて、必要に応じて法人内の事業所と連携を取り、サービスを利用していただく等の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員も勤めていただいております、気軽に相談できる関係づくりは出来ている。緊急時も必要があれば連絡をする体制が出来ており、ケアマネジメント等についても必要に応じ相談にのっていただいております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅時からのかかりつけ医を継続して利用されている。また、受診はご家族から対応していただき、受診時必要があれば連絡表や直接電話にてご本人の状態を医療機関へ報告してから受診していただいております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の三島病院が認知症疾患センターであり、必要に応じ相談、受診、治療が出来る体制となっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	兼務で併設のデイサービスの看護師が関わっており、日々の情報交換と共に、相談や確認が随時とれる体制となっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	状態把握や退院予定等、必要な状況に応じ、ケースワーカーを通して医療機関と相談を行い、一緒に考え対応している。そうした場合に備え、日頃から文章や電話にて状態をお伝えしたり、相談したりしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者の身体状態に変化が見られ、重度化した場合、早い段階から、ご本人・ご家族、かかりつけ医とこれからの事について話し合いを行い、全員で方針を共有しながら対応した。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴う指針について説明。ご本人・ご家族の意向に沿った中での支援を基本としているが、事業所として「できること・できないこと」について明確な線引きは行っていない。その都度、ご家族や医療機関に説明・相談し、どのような方向がご本人にとって一番良いのかを一緒に検討していきたい。	○	医療的な支援や重度化に伴い、現行のグループホームの設備・体制的に確実な支援の継続が難しい状況になってきた場合は、他のサービスへの移行を含め相談させていただくことを説明させていただいている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい生活の場となる関係者に事前にご本人の状態について説明し、情報の共有に努め、ご利用者の混乱を防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気でありながらも、常にお客様であることを忘れずに対応している。同姓介助を希望される方にはそのように対応させていただき、お一人おひとりの誇りやプライバシーに配慮した関わり、支援に努めている。個人情報の取扱いについては、鍵付きの棚に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	アイディア料理やお菓子、飲み物、外出等選んでいただけるような場面、機会の設定や意思表示しやすい言葉掛けを大切にしている。	○ 引き続き、今後も生活の中で自己決定の場面が多くもてるよう支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペース、意向に沿った支援を努めているが、健康を害されることのないよう支援することを大切にしている。	○ ご本人のペースや希望通りでよいのかが、なかなかつかめない方もおられる。どのように対応していくことが、ご本人にとって一番良いのかをグループホーム会議等で検討しながら、職員の都合やペース、自己満足にならないように、今後も注意して支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の希望やご家族の意向をお聞きし対応している。普段着もご本人から選んでもらったりしている。理美容に関してはご家族が連れて行かれる方、馴染みのお店からの送迎でお一人で行かれる方、グループホームに美容師さんから来ていただく方がおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りの時に、必要な食材を一緒に考えていただいている。毎食の食事作りで、下ごしらえ、味付け、後片付け等、お一人おひとり出来る所を一緒に行っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を召し上がられたり、たばこを吸われる方はおられない。おやつを自室で自己管理し召し上がられる方はおられる。食べたい物や飲みたい物をお聞きし、選択できるような対応をするように心がけているが、「何でもよい」というお答えが多い。お一人おひとりが楽しめるように、嗜好を把握するように心がけている。	○ 自分で持っているお菓子や飲み物を食べ過ぎてしまう方もおり、自己管理が難しい方については、希望時、お渡ししている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ほとんどの方がご自分でトイレに行かれており、定時誘導が必要な方は時間を見て声掛け、誘導・介助をさせていただいている。	○	失敗をされた時は自尊心を傷つける事がないような対応や、言葉掛けに気を付けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくり気持ちよく入浴していただけるよう対応している。ご希望がある方は毎日でも入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のリズムや習慣的なものもあり、夕食後、直ぐに休まれる方もいれば、テレビを楽しまれる方、寝付けずに起きてこられる方など、その方のペースに合わせた中での援助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の方は食事作りや茶碗拭き、たたみ物等の家事作業を役割と思われ一生懸命行っておられる。お一人おひとりの力や特技、趣味を活かせるよう努めている。	○	様々な家事作業を一緒に行っているが、それが、ご本人にとって役割や楽しみになっているか、日々の言動をよく聞きながら検討・対応していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感の為、小銭を持参されておられる方、ご自分で買物の時に支払いをしたいと思われこずかいを持っておられる方、散髪時の支払いが出来る位のお金を持っておられる方等がおられる。職員と一緒に買物の時に支払いをしていただけるよう促がしを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を楽しみにされておられる方が多く、買物や散歩、ドライブ、月別外出等お身体に無理のない中で外出していただけるよう努めている。	○	冬期間は買物以外なかなか外出することは難しいが、併設のデイサービスと交流を図ったり、月に1回は外出出来るようにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と一緒に外出できるような機会を計画している。個別にご家族と一緒に外出や外泊をされる方もおられる。お一人おひとりが行ってみたい所にご家族と外出できるような機会が持てれば良いと思う。	○	これからも、ご家族から協力していただき、外出・外泊していただけるようお願いしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話をかけていただいている。手紙についても自由にやり取りが出来るように対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の居室やリビングで、一緒にお茶を飲みながら、居心地よく過ごせるよう対応している。いつでも気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりと接遇を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学習したり、法人全体として身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出時に自ら居室の鍵を掛けられる方もおられる。日中は玄関の施錠はしていない。	○	建物の構造上、安全面に配慮し、下へ降りられないようになっているが、なるべく下へ行っていただけるよう対応している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は生活の場面で利用者の所在、状態の確認を行っており、夜間は1時間おきに巡回し、ご利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	お一人おひとりの状態に応じて注意が必要な物の持込や取扱いの対応をしている。危険の伴う物は所定の場所で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご利用者、お一人おひとりによって危険防止の配慮を行う点が違うため、状態に応じた事故防止に仕組み、何かあった時は、ひやりはっと・アクシデントレポートを活用し、原因追求、再発防止に努めている。また、研修などで知識は学んでいる。	○	ひやりはっと・アクシデントレポートにて原因追求と改善策を検討した後、必要に応じてケアプランにも追加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内研修にて定期的に訓練している。また、日中、夜間のマニュアルをいつでも目の届く所に貼り、職員に周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	研修で対応を学んだり、防災訓練を定期的に行い避難方法なども身に付けている。各部署や近くの特養との協力体制が出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	環境や状態により、お一人おひとりに起こりうるリスクについてご家族に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より、日常の状態の確認・把握を心掛け、体調の変化や異変の早期発見に努めている。申し送り等で情報を共有し、ご家族や看護へも報告・相談している。心配があれば、早めに主治医に連絡し、指示をいただいたり、早めに受診していただいている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量、注意事項などの記された説明用紙をファイルに綴じてあり、随時確認できるようになっている。状態の変化に伴い、主治医にも報告し、服薬の調整を図ってもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に野菜を多く取り入れたり、乳製品を取り入れたりしている。水分の摂取量にも注意し、便秘・脱水しないように働きかけている。又、外出をしていただくよう働きかけたり、毎日の運動を行うよう働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きやうがい等を働きかけており、口腔状態や個々の力に応じた中での援助に努めている。口腔ケアは健康維持の為に重要であることを認識し、口腔ケアについて適切な支援が行えるよう研修の機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、必要量を確保出来ているかを把握している。状態に応じて、ご家族や主治医にも相談し、対応している。献立は管理栄養士からアドバイスを貰っている。又、一緒に食事を作ったり、食べていただく機会を設けて関係づくりを図り、相談したりアドバイスを貰ったりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに従って対応しており、施設内研修会等でも対応を学んでいる。ノロウイルス感染予防として塩素系ハイターを薄めたもので1日2回、手すりやテーブル拭きを実施している。タオルについても、1回使用したら消毒し、洗濯するように対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は定期的にハイター消毒し、衛生管理に努めている。食事は主に近所のお店から、新鮮で安全な物を購入し使用している。魚肉については、必ず調理当日に購入し使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花いっぱい運動に参加しており、施設の玄関や建物周囲、中庭等にも花が多く、近隣の人等が訪れやすい環境作りに努めている。又、グループホームの玄関に、最近の写真や季節の物を飾ったり、ソファや椅子に座って景色を眺めたり、花を見たりして寛げる雰囲気に努めている。	○	建物の構造上、近隣の人等にとって、判り易く出入りにくい雰囲気がある為、今後も工夫しなければならないと感じている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、不快な音やカーテン等で光が眩しくないように配慮している。バルコニーでお花や野菜を育てたりして、食堂から見渡せるように配慮している。又、季節を感じていただけるような装飾を行い、居心地良く過ごせるように工夫している。	○	装飾については充分とは言えない。その時々でご利用者・ご家族・職員と相談し、手作りの温かさを感じられるようにしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋・ソファ・談話コーナー・廊下の椅子等、気の合う仲間が集まったり思い思いに過ごせる居場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人・ご家族と相談して、ご本人が慣れ親しんだものを、安心して居心地良く過ごせるように持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・昼と定期的に換気を実施している。温度調節はご利用者の希望や体調を考慮し状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ等に手すりを設置し、安全に生活できるよう工夫している。廊下には、ベンチが設置してあり、気軽に休めるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できないことや困っているところは一緒にさせていただいたり見守ったり、できるところは危険無く行っていただくように支援している。又、ご自分の居室と分っていただけるように、ご自分で選んだ布で居室の暖簾を作っていただいたり、目印になる物を飾ったり置いたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑や庭、ログハウスがあり園芸を楽しんでいただいている。収穫した物を調理して召し上がっていただいている。バルコニーでも食事会をしたり、長岡花火をご家族と観ていただいたり、プランターでお花や野菜を育てて楽しんでいただいている。	○	ログハウスでの茶話会や食事会、交流会等を実施し、楽しんでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・同法人内のグループホームの方々と交流させていただいたり、併設しているケアハウス・デイホームから、グループホームへ入居された方もおられ、安心できる馴染みの関係が出来ている為、交流を楽しんでいただいている。
- ・周囲には畑・庭など自然に恵まれており、ご家族や近所の方からご協力いただき、4階バルコニーをはじめ、中庭のふれあい農園やご近所の家の畑で、畑仕事や花作りを楽しんでいただいている。
- ・4階である為、外出する機会や地域との関わりが少なくなる事の無いよう、なるべく地域や馴染み、関わりがあった場所へ外出していただけるよう支援している。